

地質調査技士に合格して

新栄エンジニア(株)技術部調査課 中村 美香



始めに、この調査の仕事に出会った頃のことについて書きたいと思います。

大学では、今はなき地球科学科に所属していたものの、専門は地球化学でその中身は隕石学であり、この仕事をするにあたっては(他のどんな仕事をするにしてもと思いますが)あまり役に立たない? 種類の研究を目的とする勉強でした。ただ、始めのころ少し地質や岩石・鉱物の概略的な勉強はしていた? ので、少々のアミスという所でしょうか。

大学の先生からの突然の紹介ということもあり、半信半疑のままこの会社に面接に来たのですが、そのとき「報告書」を提示されながらこういうものをつくっていると説明された記憶があります。そして運良く入社することとなり、とにかく、どういものかやってみようと思った頃は、意味も分からないまま言われたことをするので精一杯でした。現場では、テープを引張りながらの位置出し、高さをはかるためレベルを覗いたりスタッフを立てたり、長靴とヘルメットと少々のおかしさを身にまといながら検尺の立会いをしたり、すること全てが新鮮でした。そして、慣れてくると現場作業にせよデスクワークにせよ、その仕事の目的や意味がわからずただ指示されたことをするのは面白くないし満足感も得られないので、その都度、何に繋がっていくのかを考えようと努力しながら作業するようにしました。ただ、特に、発注者との打ち合わせの時などは内容についてよく理解できず、かといって上司に一から十まで聞くわけにもいかず、理解できるようになるまで自分の中では毎回苦悶苦闘の連続でした。この調査の仕事は、本当に幅広く奥深く、土木全般の内容に付随するあらゆる知識が必要であり、何より経験が必要であると思います。ただ、私の場合、経験を積みれば積むほどわからないことがふえたことも事実ですが(笑)。

土木はつきつめていくと「土」が基本であり、その千差万別な挙動を示すマイクロな世界を理解しなければならないので、最初はグローバルでマクロな地質の分野とは、思考の拠点が根本的に違っていると思いました。しかし、土がいつどのような環境で堆積したか、どうしてこのような性質をもつ土になったのかと考えていくと、いつしか地質の問題とも重なっていることに気づきました。土を理解するには、どうしてもその堆積環境を理解しなければならないし、また、それを踏まえることでより詳しい土の性質を把握できるものだと思います。ですから、この仕事に対する方向から、土や地盤について疑問をもったことも執着したこともない私は、あらゆる角度から「土」を吟味し、様々な「土」に出会う経験を積み何より自分自身が「土」を理解しなければ、要点をおさえたわかりやすい報告書は書けません。それで、私は先輩たちからご指導や良きアドバイスを頂きながら、努力あるのみの日々が続きました。

そんな中で、地質調査技士試験を会社側から受験するよう勧められ、去年の2回目の挑戦で合格しました。1回目の挑戦は、毎日の残業と試験勉強との両立が難しく準備不足となり、試験に対する意気込みや合格しようという意識が薄かったこともあり失敗しました。また、面接でも緊張して思うようにうまく話を進めることができずに終わってしまったように思います。2回目の挑戦では、とにかくできるだけ準備を整え、特に、口頭試験では嘘でも? 自信をもって答えようと心に決めて臨んだのが実を結んだのか好結果となりました。勉強の方法は、皆さんと同じようなものだと思いますが、ボーリングポケットブックや事前講習会で頂く講習会テキストを教科書として読み、本全体の内容を把握するようにしました。特に、講習会テキストには試験問題と直結している内容が満載

なので、苦勞して暗記する価値があると思います。そして、過去問を繰り返し解き、わからない所を調べる習慣をつけ、その都度理解し、毎日少しずつでも継続するようにしました。また、現場技術で不明な点は本を開くより、実際毎日作業しているオペレーターに聞いた方がわかりやすいですし、時には現場作業員にしかわからないためになる苦勞話などを聞けるとい

う特点もあると思います。

この地質調査技士試験に合格できたことは、この仕事に携わってきた証であり貴重な体験だと感じております。今後、私自身は一身上の都合によりこの仕事から離れることになりましたが、今までのこの仕事を通じて学んだことや努力して会得したものを忘れず人生を歩んでいきたいと思っております。

明治コンサルタント(株)仙台支店 溝上 雅宏



地質調査技士について述べる前に、私事を2,3話したいと思います。私は長崎生まれの長崎育ちで、大学も九州です。しかし、会社からは仙台勤務を命じられ、ナンダカンダのうちに4年が経ち、道路なども九州より東北の方が詳しくなりました。道路といえば、入社1年目に長崎へ帰った時の話です。同級生と久しぶりに会うことになり、待合せを母校にしました。当時、徒歩通学でしたので、昔を思い出しながら徒歩で向かいました。階段を登って神社を通り、坂を下るとその右に蛇行した細道があって…ない!? そこには細道はなく、広く真直ぐな道路があって、通った幼稚園や小店もなく、以前の目印もなくなっていました。お恥ずかしい話ですが、時間もなかったのでタクシーで母校まで行きました。「こぎゃん事でよかとやろうか? 何か足りんとじゃなからうか? (こんな事でいいのだろうか? 何か足りないのではないだろうか?)」と車中で考えてしまいました。ところで、つい九州弁がでましたが、この方言こそが私にとって摩訶不思議な生物となっています。1年目の頃はオペレーターさんとの話が苦手でした。もっと端的に言うと、何を言っているのかわかりませんでした。たまには、それを言い訳にしたり、愚痴をこぼしていましたが、「九州ではできな

いことを経験できるし、それを楽しくするかどうかは自分じゃないか? やるんなら楽しい方がいいだろう」とある方に励ましていただきました。その時、母校へ向かうタクシーで考えた事を思い出しました。

落ち着いて考えてみれば、オペレーターさんは世間話よりもボーリング関係が多く、何故理解できなかったのかわかりました。そこで、職場の方に相談したところ「地質調査技士」という資格があることを教えていただきました。その頃から参考書を眺めるようになり、オペレーターさんと実物を交えて話すようになった気がします。しかし、物事には良い面もあれば悪い面もあり、例えば、全ての機械が同じではない事や解決策が一つではない事、単純な所で基本を越えて応用から覚えてしまうことなどがありました。それに気づいてからは、メモを取って表にまとめるなど、自分なりに整理するように心がけました。また、整理したことで生まれてくる事なども話せるようになり、方言は相変わらずわかりませんが、話す事が面白くなりました。

しかしながら、面白いだけで資格が取れる訳はなく、講習会へ出席し、本を音読し、紙に書き、過去問で模擬試験をして要領を掴むように努めました。また、職場の方には擬似面接

をしていただきました。そこで、この場をお借りしまして、ご指導頂いた職場の方々、オペレータの方々へ感謝の意を表したいと思います。

最後になりますが、ある会社で化粧室をお借りした時、張り紙を読んで一瞬ビクッとしました。

恐縮ですが、その言葉をお借りして締め括りたいと思います。「一生懸命やれば知恵がでる。中途半端だと愚痴がでる。何もしないと無い訳がでる。」

(株)日本パブリック東北支社
寺田 正人



地質調査技士試験の勉強をする際、まず参考書選びですが、参考書が沢山ありすぎて本を持つ手がいくつあっても足りないので、参考書は「ボーリングポケットブック」一冊に絞りました。それと、携帯用にポケットサイズの本も一冊常にバックに入れていました。

明けても暮れても暇な時間があれば「ボーリングポケットブック」に目を通していました。時にはノートにまとめたりもしました。読むだけより書きながらのほうが覚えられますからね。

本を読むだけの日々に飽きたとき、過去の問題集を解いてみます。答え合わせをしてみて、ひどい結果になっても落胆することはありません。まだまだ時間はあるのです。不得意分野がわかっただけでも大きな収穫です。もちろん、わからなかった箇所はボーリングポケットブックでおさらいをします。

最初のうちは好きな分野、得意な分野だけ勉強していても良いと思います。得意分野でミスを犯したら悔しいですからね。完璧に覚えるつもりでぶつかっていきました。

といっても、不得意分野を見て見ぬ振りにはできません。稀に訪れる頭の回転がすこぶる良い日を使って不得意分野の克服に挑戦するのです。本を読んで、ノートにまとめて、過去問題を解いて、復習をして、また本を読んでそのくり返しです。

夏の暑い日、仕事の後のビールはたまらないものです。つい、もう一杯、もう一杯となり止まらなくなってしまいます。そんな時は仕方ありません。その日の勉強は諦めて根性で朝方人間に生まれ変わるのです。夜に沢山飲んで酔いがまわっても二日酔いになるほど飲まなければ、翌朝早起きして一歩前に進めるのです。

朝起きれない人はどうするかって？

仕方ありません。お酒を飲まない、または、少量に抑えるか、飲んだ後でも頑張れば良いのです。とにかく何かを我慢しないといけません。

そのような生活を送っているうちに、あっという間に試験日当日になりました。試験当日は現場作業があったのですが、試験ということで休ませてもらうことに。現場の仲間から激励を受けた手前、試験に落ちるわけにはいなくなりました。

試験前夜は特に何も考えずにボーリングポケットブックに軽く目を通す程度で済ませました。

試験当日になれば、あとはもう開き直すだけです。普通に起きて、普通に朝食を食し、軽い気持ちで試験会場に向かいます。ただし持ち物のチェックだけは何度も行いました。通常、試験会場には必要な物しか持っていきませんから、その必要な物のうちひとつでも忘れ物をしたら大変です。だから、持ち物のチェックだ

けは必ず行いましょう。

軽い気持ちで試験会場に向かったつもりでしたが、いざ試験会場に入室するとやはり緊張感が増すものです。開き直ったつもりでもぎりぎりまでボーリングポケットブックに目を通して、「やることはやったんだ」と自己暗示をかけていたような気がします。

試験問題の内容はもはや覚えてはいませんが過去問題を繰り返し解いた成果が表れたような気がします。すっかり同じ問題ではありませんが、似たような傾向の問題は数多く出ました。自動車免許のようなあからさまな引っかけ問題はありますが、問題を良く読まないと、うっかりミスをしてしまいます。問題はゆっくりと、理解できなかつたら何度も読み直すことです。

ひとつおりの問題を解き終わったら、見直しを必ず行いましょう。ここで間違いが見つかることもありますからね。

試験が終わると、後に試験の回答が張り出されるので自己採点が可能です。試験問題の用紙は持ち帰りが可能なので問題用紙に自分の回答を控えておきましょう。

私の場合は自己採点の結果、なんとなく良い点数はとっているような、でもなんとなくボーダーラインのような。試験後は手応えをとっても感じていたのですが、自己採点の結果、自信をなくしたわけではありませんがちょっとがっかりしたものでした。

口答試験は午後から実施されますが、順番は試験会場の仙台から遠い場所の人から先に試験を行うようです。私は仙台在住のため、試験開始時間は午後4時頃でした。

この待ち時間がとてもとても長く感じられるのです。待っている受験者の方々は、筆記試験はどうだったとか、自己採点の結果はああったなどと話しており、私はその会話に聞き耳をたてながら(えっ! そんなにできたのか)とか(あの問題はそういうことだったのか)などと一人で考えたりします。一方、口答試験が終了しこれから帰路に向かう受験者の方々は、あんなこと聞かれたとか、こんなこと聞かれたなどと話しており、私はその会話にまたもや聞き耳をたてながら、(えっ! そんなこと聞かれるのか)というような調子で、いろんな会話を聞きながら一人で一喜一憂していたものでした。

自分の番が近づいてくると試験室近くの椅子に座りスタンバイをします。その頃には緊張感レッドゾーンに突入です。また、この場所で待っている時間がこれまた非常に長く感じられるのです。

私の場合、口頭試験の内容としては

- ①業務経歴をもとにこれまでやってきた業務の内容についての質疑応答。
- ②サウンディングの種類を3つ答えよ。の2つと日常の業務に対する姿勢などを質問されました。

この度はたまたま得意な分野からの問題が多かったためか、試験に合格することが出来ましたが、地質調査の世界はまだまだ判らないことばかりです。今後も業務の中からも沢山の疑問を持ち、それに対しての答えを探しながら業務を進めていきたいと思っております。そういえば、当社の社訓のひとつに「日々是進歩」という言葉がありました。なかなか、良い言葉だと思います。